

フィリップ モリス インターナショナル(PM)

【セクター】 生活必需品

【市場】 NYSE

【企業概要】

世界最大のタバコメーカーで、17年の世界シェア（紙巻きタバコおよびヒートスティックの販売本数）は28.0%です（中国市場を除く）。2008年に分離した兄弟会社のアルtriaグループが米国市場を担当し、同社が海外市場を担当しています。主な銘柄に「マールボロ」「L&M」「チェスターフィールド」「フィリップモリス」「パラメント」「ラーク」などがあります。

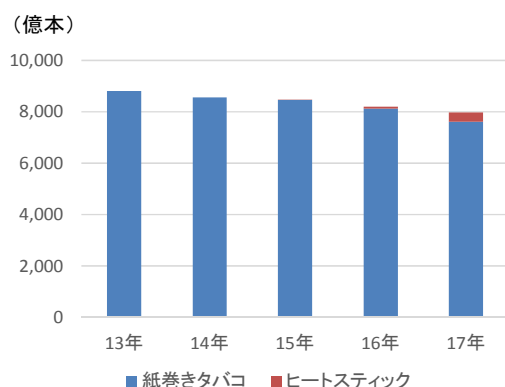
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
16年12月期	26,685	6,948	4.48	4.12	-8.2	-	-29.6
17年12月期	28,748	7,789	5.02	4.22	-7.8	-	-23.8
18年12月期予想	29,260	7,813	5.03	4.48	-7.7	-	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

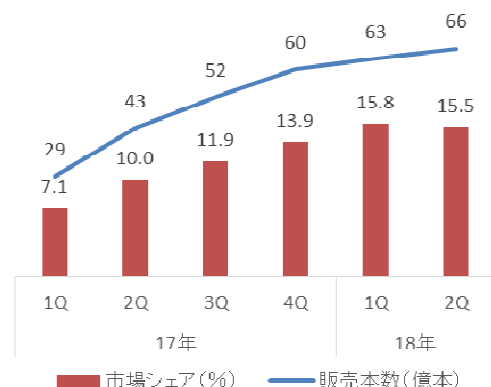
【主要指標】

図表1 タバコとヒートスティックの販売本数



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 日本での「IQOS」ヒートスティック



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

世界のタバコの販売本数は年率3%程度での減少が続いており、販売数量の減少を価格引き上げで補って売上を維持することが続いています。一方、加熱式タバコ「IQOS」などの低リスク商品を普及させることで、喫煙者減少のトレンドをやわらげて持続的に利益成長できる体制への移行を目指しています。ただ、世界に先行して展開した日本での普及見通しが下方修正され、米国での販売申請では健康リスクが低いとは認定されず、当初の見通しからは後退を余儀なくされています。尚、業績表でBPSがマイナス（つまり、債務超過）となっていますが、キャッシュフローが安定している米国企業で散見されることで、財務状態が懸念されるということではありません。

【見通し・注目点】

18年9/27（木）開催のインバスター・デイで発表した19年から21年にかけての主な経営目標として、（1）売上・調整後EPSの成長率が5～8%、（2）ヒートスティックの販売本数が21年までに900～1,000億本、（3）18年から21年にかけて年間10億ドル超のコスト削減、などを掲げています。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 18/10/10）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。